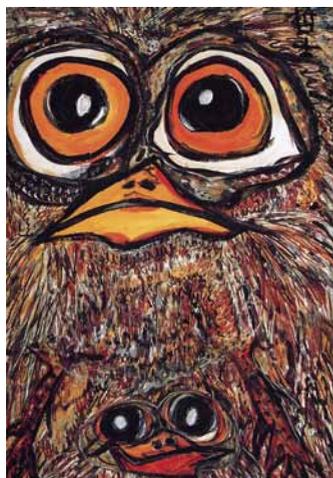




「祈り」1989,130.3×193.3cm



「ふくろうの親子」,1980,109×77



「おっこちないでね」,146×102cm

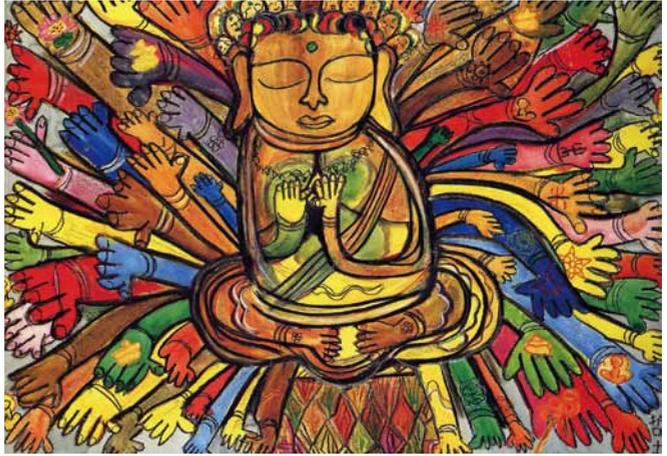
ここに引用した5点の作品をはじめとして仏様（フクロウも好き）の大好きな画家岩下哲士氏の作品群は、私の詠んだ五七五「内発の 動機に駆られ ひと動く」の文脈や「3H美術教育のススメくわ (Page17)」の文脈の妥当性を強力に裏付けてくれるのです。

かつて、東広島市の先生が上掲の「祈り」を体育館ステージ奥の白い壁面一杯に大仏さながら投

影提示され、4年生の子どもたちを対象に展開された鑑賞の授業に立ち会いました。その際、この一枚の絵を前にして45分間、子どもたちの感想の交流は途切れることはありませんでした。最後には、岩下氏が付した「祈り」との「題名」をも彼ら自身が掘りおこしました。さらに岩下氏の生き様から人間としての生き方・あり方にまで子どもたちの発言がおよんだ時、私は、あらためて岩下氏の「絵の力」と子どもたちの感じる力・考える力の素晴らしさに敬服しました。

以来、私は1人でも多くの子どもたちに岩下氏の作品を紹介したいと考えるようになり、ことあるたびに教師には紹介してきました。泰西名画を紹介し、ワークシートにながしかのことを書かせ、幾分かの交流ということで「鑑賞の指導」とはいえないからです。子どもたちの人間形成につながる指導のあり方をこそ教師達には求めてほしいと願うのであります。

なお、岩下哲士氏の画業等の情報はウェブ上で確認できます。アクセスしてみてください。私、こればかりは自慢なのですが、1ファンとして10有余年、毎年10月、岩下氏の個展(京都嵯峨野/常寂光寺)には足を運んでいます。



千手観音 79.0×109.0cm 1992年



「かんのんさま」,1993,109×790cm/絵の中に何体の仏様が描かれているか数えてみてください(若元)